



清水町では、町ぐるみで子どもたちを育てていくコミュニティ・スクールが進められています。まだまだ新型コロナウイルスの感染拡大が心配されるところですが、子どもたちは生き生きと活動しています。今月号も町民とのかかわりを中心に、子どもたちの様子をお伝えいたします。

しみず保育所

秋は美味しいものがいっぱい！！

〇りんご（王林）をいただきました！

清水町御影在住の田中俊英様のご厚意で、しみず保育所に「王林」という品種のりんごを100個いただきました。たくさんのりんごに歓声をあげていた子どもたち、黄緑色のりんごに興味深々でした！

11月2日、給食の時間にいただきました。甘みが強く、シャキシャキとした歯ざわりで、とてもおいしくいただきました！



【田中俊英さん】

〇芋掘り体験をさせていただきました！

毎年、お誘いいただいているさつまいも掘り。今年は10月19日、清水高校のお兄さんたちと一緒にいきました。子どもたちは、お兄さんたちから教わ

ったように、優しく土を掘りさつまいもに傷がつかないように頑張っていました。が、大きなお芋は中々抜けず…。友達やお兄さんと協力しながら芋掘りを楽しみました。大きなお芋がたくさん収穫できて、子どもたちは大喜び！お芋が根で繋がっていることも知ることができ、とても良い経験になりました。



そして、11月9日、焼き芋に招待していただきました！高校に着くとすでに甘い香りが漂っていました。高校生が食べやすく切ってくれたお芋は、温かくトロツとしており、4つおかわりしている子どももいましたよ。美味しすぎて「夢みたいだったあ♡」とお家で話す子どもも。清水高校の皆さん、ありがとうございました。



御影こども園

「いらっしゃいませ～」おみせやさんごっこ

11月19日 子どもたちが待ちに待った『おみせやさんごっこ』。

11月に入り、3，4，5歳児混合クラスとなり、『おみせやさんごっこ』に向けて各クラスお店を2つ決めてアイデアを出しながら物づくりを協力して行ってきました。

大きい子が小さい子に品物の作り方を教えてあげるなど、お互いを思いやり良い刺激を受けながら色々な品物を工夫して作っていました。

当日は、遊戯場いっぱい「いらっしゃいませ」「ありがとうございました」等の声が響き、おみせやさんでの買い物を楽しんでいました。「わたあめやさん」「うみべりーすいぞくかん」「おもちゃやさん」「ディノスみがけてん」「めろは

っと」等子どもたちのアイデのお店がたくさん！！

小学校の先生がお客さんで来てくださり、子どもたちは言葉のやり取りを楽しんでいました。



**ランチは手作りミック（マック）
ハンバーガー・ポテト・ナゲット・
ミニトマト・枝豆・ジュース**



清水幼稚園

清水高校と幼稚園

作物を育てる・お世話をする・収穫をする・そして、その恵みをいただくという1年間に渡る清水高校との校種間連携・交流は、幼稚園の子どもたちの健やかな成長の一助となっています。この保育の質の向上につながる取り組みを清水幼稚園では、清水高校の協力のお陰で10年以上続けてきています。

コロナ禍で従来通りとはいきませんが、今年も幼稚園は年間を通して清水高校と交流してきまし



た。

10月29日は清水高校生と焼き芋をしました。高校生が、9時前には到着して焼き芋の準備をし、園児が運んできたさつまいもを焼きはじめました。そして、芋が焼けるまで、園児も高校生と一緒に冬支度をしました。高校生は園庭の近くの物置に入っている夏の遊具と冬の遊具の入れ替えを手伝ってくれたり、沢山の落ち葉を集めてくれたり、とてもよく働いてくれました。幼稚園児にとって高校生は頼りになる優しいお兄さんで、憧れです。高校生に焼き上がった芋を食べやすい大きさに切ってもらい、みんなであつあつの芋を笑顔でたくさん食べました。



の落ち葉を集めてくれたり、とてもよく働いてくれました。幼稚園児にとって高校生は頼りになる優しいお兄さんで、憧れです。高校生に焼き上がった芋を食べやすい大きさに切ってもらい、みんなであつあつの芋を笑顔でたくさん食べました。

また、赤坂先生には、来年のために花畑や畑も耕運機で耕していただきました。

清水高校には、先生方をはじめ、生徒の皆さんには、幼稚園のために力を貸していただいています。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。



清水小学校

エスポラーダ北海道から

フットサルを教わりました

11月12日（金）、北海道のプロフットサルチームをもつ、「一般社団法人エスポラーダ北海道スポーツクラブ」の出前授業講座が、清水小学校体育館で行われました。

2年生57名がチームからお借りしたフットサル用のボールを1つずつ持ち、フットサルに必要なプロの技を伝授してもらいました。チームから来てくれたのは3名で、主にチームコーチの土屋さんに指導を受け、選



手の室田さんと高橋さんからサポートを受けました。



特に日本代表でもある室田選手は翌々日の四つ葉アリーナで行われた試合に出場し、勝利につながるゴールを決めるほどの選手です。随所で、華麗な足技を披露してくれました。

最後はプロ対子どもたちで試合をして、1点差で子ども

たちが勝ちました（勝たせてくれました）。一流選手とともにプレイした経験は、子どもたちにとって忘れられない一日となりました。

御影小学校

御影産、美味しいりんごを沢山いただきました！

学習発表会前の小春日和、全学年が2日に分かれて、校区にある田中俊英さんのお宅を訪問しました。

田中さんは25年程前から庭先の小さな農園でりんごを育てておられます。今では毎年1600個以上りんごを収穫されています。

到着すると早速、田中さんから、りんご園を始めたきっかけや、北海道にリンゴ栽培のノウハウを伝えた歴史などをお話していただきました。



田中さんの小さな農園には、つがる、いずみ、群馬名月、世界一等、何種類ものリンゴの木があります。その中から一番食べごろなりんご、王林とあかねを収穫させていただきました。



百聞は一見にしかず。熟したりんごを取る時は、はさみは使わず、手でもぎます。けれども下に引っ張ってはいけません。

上にもぐことで、枝を傷つけず取ることができます。子ども達は、その教えを守り、一人3個ずつ楽しく丁寧に取らせていただきました。更に、「今回はコロナだから、ここでは試食できないからね。」と言って、紅林というりんごを沢



山いただきました。学校に戻りみんなに分けようと包丁を入れると、そのものすごく多い蜜の量に二度びっくりでした。

りんご収穫体験は、学習発表会前のほっとする素敵なひと時にもなりました。本当にありがとうございました。

清水中学校

とかち清水学「人権・福祉」

～高齢者疑似体験を通して～

本校の3年生が、毎年総合的な学習の時間で行っている「人権・福祉」の学習の様子です。

調査探究の一環で、10月21日（木）に高齢者疑似体験が行われました。今回は家庭科とのタイアップで、清水町在住の介護福祉士、松岡静子さんをお招きして「高齢者の介助の仕方」について学びました。

説明を受けた後、疑似体験セットや車椅子を使い、高齢を迎えたり身体に障がいを負ったりしたとき、見え方や体の動かし方にどんな影響があるのかを身をもって学びました。

「何だ、これ。全然見えないし、体が思ったように動かない」

あちこちで悲鳴が聞こえてきます。車椅子も、段差などのバリアがあれば、動ける範囲がせまくなります。いつもなら簡単に乗り越えていけるのに、誰かの手助けが必要です。目隠しをして手を引いてもらった生徒は、「見えないということがこんなに怖いとは思わなかった。誰かに身を委ねるとするのは、相手のことを信じる必要がありますね。」と感想を述べていました。

介助の仕方についてもレクチャーを受けました。技術はもちろん大切ですが、そこに「愛」はあるのかということですね。

「老い」は誰にでも平等におとずれます。長く生きていれば、今自分たちができる「当たり前」が当たり前ではなくなる時がくるかもしれません。

家庭科の保育所訪問でも、誰しものが幼いとき大人の愛情や保護のもと、沢山手をかけてもらって大きくなったのだと改めて理解しました。はじめから自分で何でもできたわけではないことを知るよい機会となりました。

「自分のため、人のため、清水のため」という本校の総合的な学習のテーマにせまる、たいへん有意義な体験となりました。



御影中学校

職場体験

10月28日(木)に2学年の生徒が清水町内の各事業所等で職場体験学

習を行いました。

体験前には、清水町役場より 2 名の講師を招き「マナー講座」を受けてからの職場体験。体験の目的は「働くことの意義や大切さ」を学ぶことです。自分の適性や長所を振り返り、礼儀作法や言葉遣い等、普段の学校生活を振り返ることができるようにすることもねらいの一つです。

生徒は仕事の楽しさ、難しさ等を感じながらも、とてもよい表情で体験学習を行うことができました。生徒のために学習の場の提供とご指導を頂いた清水町内の各事業所等の皆様に心から感謝申し上げます。



「ご協力いただいた事業所等～御影こども園、御影診療所、お食事処ひだまり、清水消防署、しみず保育所、清水図書館、清水町役場、えびすや菓子舗、ごはん屋ゆめあとむ、シンデレラ（美容室）、村上牧場、藤田牧場、清水自動車工業株式会社」

CS 委員会

“教育の四季”の「家庭」を視点に 考えられる手立てを話し合う

本年度第2回清水・御影 CS(コミュニティースクール)委員会が、清水は 10 月 20 日、御影は 10 月 22 日にそれぞれ小学校で開催されました。

CS 委員会は、地域とともにある学校づくりのための学校運営協議会制度に基づくもので、清水町では3年目となります。

まず幼稚園長及び各学校長から経営方針に基づく実践状況について、子供たちの生き生きした学校等での生活状況が説明されました。



続いて、清水町が進めています小中一貫教育の取組状況を教育長から説明し、今後は保護者や地域に説明していくこととしています。

その後、清水町独自に取り組んでいます“しみず教育の四季”の「家庭」に視点をあて、子供たちの様子や課題、学校や地域、家庭において考えられる手立て



について意見交換を行いました。

家庭でのSNSの活用ルールや朝食の欠食などの課題が出され、学校としては情報提供やPTA活動での呼びかけなど、地域としては日常的な見守りや親同士のコミュニケーションの機会の必要性、親子で参加できる地域の行事への参加も大切であろうとの意見が出されました。